

伊勢の **今** を伝える

ISEBITO NEWS

春・初夏号 第3号

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会
おかげまいりブランド戦略委員会
●発行部数 11万部
●企画・編集 伊勢文化舎
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3
TEL (0596) 23-5166 FAX (0596) 23-5241
E-mail otayori@isebito.com

3

いせびとニュース

風薫る神田で 御田植初

神田にのどかな田楽が流れ
禰がけの早乙女たち、
烏帽子姿の若者たちが
神代から受け継ぐ
早苗を植える。



遷宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

神宮神田の御田植初 撮影/阪本博文

神さまのお米を育てる

緑の風薫る五月上旬、伊勢神宮の神田では御田植初が行われる。神様に供えるお米づくりの祭事である。

苗は、四月五日の神田下種祭によって苗代に種蒔きされたもの。遠い神代の昔、日本国民の主食とするよう神様からいただき今日まで受け継がれた清浄な稲種(忌種)を育て上げたものだ。

笛、太鼓、さら、鼓によるのどかな田楽の調べが流れる中、白衣に緋の袴、手甲、脚絆の早乙女たち、それに烏帽子姿の若者たちが、一列に並んで早苗を植えていく。

神田は、三鈴(十町一反余り)。利水によい五十鈴川中流域の右岸、近鉄・五十鈴川駅の東方一キロの伊勢市楠部町に広がる。

やがて、田の中では二人の若者が恵比寿、大黒の大団扇をもち、左右からゆつくりと打ち合わせ豊穰祈願の所作をおこなう。

田植えが終わった一行は、「ハエヤーハエ、ハエヤーハエ」とはやしながら五十鈴川の岸辺にある大土御祖神社に向かい、境内で豊穰を祈って、素朴な田舞を披露する。

一方、六月二十四日には志摩市磯部町にある別宮・伊雑宮の神田で、志摩の夏祭りともされる御田植式(国の重要無形民俗文化財)がにぎやかに行われる。

伊勢市楠部町の神田での祭は、秋の収穫祭も含めその年の気候に左右されるが今年(5月7日(土))に決定。

●問い合わせ 神宮司庁 広報課
0596-24-1111

●主な内容
2・3面 遷宮への道(1)
4面 神宮宮域林を守り育てる
5面 御装束神宝 鶴斑毛御彫馬
遷宮入門(その1)
6・9面 特集 賢の道をゆく
120・11面 おかげの国をめぐる(五・六)
いせびと歳時記

伊勢神宮の宮域林で ご用材の伐採をほぼ完了!



伊勢神宮のご遷宮まで残すところ二年余り。今回、神宮宮域林ではご用材の二十四パーセントを目標に伐採。将来の完全自給をめざして、苗を育み、**「仙人」**を育てる。

たくましい 母樹から種子を

緑輝く四月、神宮宮域林では恒例の植樹祭が行われる。山の斜面に植えるのは、五十センチばかりの若々しいヒノキ苗。神宮の佐八苗圃で種子から三年間かけて育て上げたものだ。



山入り——新しい現場(間伐)で仕事を始めるとき、職員たちは必ずその山におられる神に供え物をし、祈りをささげる。(撮影/森武史)

樹の森で採取する。母樹は天然ヒノキで、枝張り豊かな、見るからにたくましい大樹である。木登りが得意な現場職員がよじ登って種子の話まった実を集める。

「母樹の樹齢は定かではありませんが、多くは二百年を越えているでしょう」と営林部技師の村瀬昌之さん(56)。ヒノキも親の形質を受け継ぐので、母樹の森はとりわけ大切にしているという。

種まきは春四月。採取した実をほぐすと一個から約四十粒の小さな種がとれる。それを谷川の水に四日間浸したのち苗床に蒔く。選びぬかれた種子でも発芽率は二、三割とか。佐八苗圃を担当する営林部の中川典之さん(28)は「苗は植林のために年間二万本以上は育てます。毎秋、母樹に登って種採りをするのですが、年によって実が思うようにならないこともありませう。酷暑が原因なのか、昨年は種が少なかったです」と自然相手の森づくりの難しさを語る。

御杣山を再び伊勢へ

神宮の母樹の森は、木曾の赤沢にある御杣山の林相によく似ている。



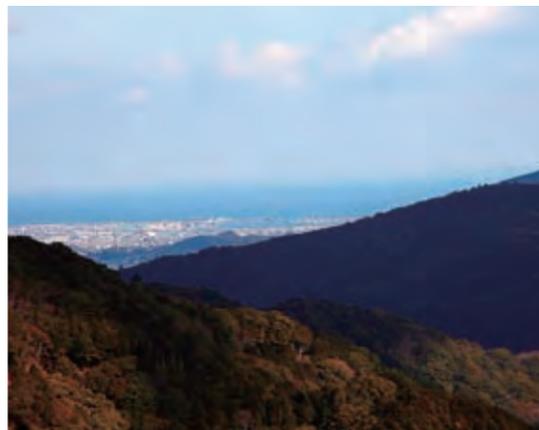
神宮宮域林の奥深い「仙人槽」地区の母樹の森。樹齢二百年以上の天然ヒノキの母樹がたくましく枝を伸ばしている。

と村瀬さんはいう。今回、ご用材調達に重責を負って、木曾へ足繁く通っている。

赤沢(長野県木曾郡上松町)は樹齢三百年から四百年の天然ヒノキの美林として知られ、明治以来、神宮の御杣山としてご用材を供給してきた。

遷宮制度が定められた千三百年前のことになると、神宮の山々もヒノキの良材は伐りつくされ、御杣山は遙かな地へ移された。再び、伊勢の山で育ったヒノキで、ご遷宮を行いたい、本来の姿に戻したい——。大正十二年、専門家による神宮神地保護調査委員会が招集された。定めたのは、二百年先に視点を置く営林部の基本方針だ。常に、神宿る森にふさわしい森厳さを保ち、自然の保護につとめ、ご造営用材の育成に努めること——。

それから八十余年、その大方針は、今日まで変わることなく神の森に受け継がれている。



神宮宮域林は約5446ヘクタールと広大だ。五十鈴川の水源域と宮川流域の前山からなる。山頂部からは伊勢湾がのぞめる。



伊勢名物

赤福

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地
電話 0596-22-2154(代) ファクシ 0120-081381
<http://www.akafuku.co.jp/>

再び、伊勢の山で育てたヒノキで 式年遷宮を

ご用材の四十六割を担う

今回の遷宮では、一期生ともいえる大正時代に植林した樹齢八十年以上のヒノキ材を中心に、厳選された六千二百本を遷宮用材とすることとされている。ご用材全体の本数の四十六割に当たる。

八十年生の木はご用材の中では、いわばSサイズ。主に内宮・外宮の正殿を囲う外玉垣の母木・子木、板垣の柱として製材される。

神殿の主要なご用材は、平均して樹齢三百年の木曾ヒノキを用いる。特別に大きい御船代、正宮の棟持柱、正宮の御扉のご用材は、三百年以上で、しかも真っ直ぐ天をさす姿のよい大樹でなくては役に立たない。内宮・四丈殿の千木も十三材の材四本をはじめ長尺の材を必要とする。



枝張りよい母樹。

遷宮への道③ 神宮宮域林を守り育てる

「早くから大樹育成の実験もしています。成果は着実に現れていますよ」と村瀬さんの顔がほころぶ。木を大きく育てるのは、光。実験木の周囲は伐り開かれて明るく、頭上から陽光が降りそそぐ。実験の成果によっては、ご用材の自給に明るい見通しがつく。

七人衆、杉夫に初挑戦

古くは、山仕事をするとを「杉」とか「杉人」と呼んだ。今回、営林部林業作業員の若手を中心とする七名が御杉始祭の神事でご神木を伐採する大役を果たした。数百年ぶりの快挙である。

この神事のクライマックスは二



1日に3本はおのおの大木を伐採すること——、久保田圭一さん(中)、松田和幸さん(左)たち「杉人」を務めた営林部員7名は、1年間かけて練習に励んだ。その切り株が林のあちこちにある。

本のご神木が「杉夫」によって伐採される瞬間にある。杉夫たちが木の根元を三方向から同時に伐り進む「三ツ尾伐り」という伝統的な巨木の伐採法だ。樹齢三百年のご神木の根元は太く固く、伐採完了まで一時間程度かかる。木曾が御杉山となって以来、地元の人々が杉夫をつとめてきたが、高齢化などにより、今回、ご神木のうち一本(外宮の御樋代木)を伊勢で受け持つこととなったのだ。

立ち木の伐採がチェーンソーに代わって久しい。今では目にする機

会さえないおのによる伐採は、ハードルの高い挑戦だった。

神事までに一年しかない。班長の久保田圭一さん(45)は、「はじめはどう手をつけたいかわからないままに、一日三本、毎日おのの木を伐ると決め、みんな練習を始めた」と振り返る。はじめたころは五分つづけるのがやっと。

体力には自信があったが、並大抵な握力ではおのを使えないとわかる。寸暇を惜しんで握力強化にとめた結果、どうにか二十分は続けられるようになった。

木曾随一の樵といわれる杉頭(松原福一さん(68))に指導にきてもらった。格段に技術が向上、

みんなのやる気も満々に。

「それぞれが道具に懲りはじめて、自分で納得のいく使いよいよおのを特注したものです」

本番前、全員の気持ちがひとつとなって高揚しているのがわかった。小気味良いスピードで伐り進み、余裕をもって大役を果たした。伊勢の「杉人」たちを見守ってきた村瀬さんは、「この技はぜひとも伝えていってほしい」。山入り(二面参照)の日には、おのによる伝統の技で一本伐ることを提案している。日本の「心と技」を伝承する式年遷宮にふさわしい新しい取り組みとなるにちがいない。



「二百年かけて理想の森に」と話す村瀬昌之さん(左)と中川典之さん。人工林・自然林の差のなくなるのが神宮林の究極の姿という。

御杉始祭 大山の神! 横山に一本寝るぞーっ

御杉始祭は平成十七年六月三日長野県木曾郡上松町赤沢の森で行われた。

池田厚子祭主、北白川道久大宮司(当時)ら三百人の参列するなか、厳かな神事に続いて「杉夫」たちによるご神木の伐採が始まった。内宮のご神木は木曾の「三ツ紐伐り保存会」の会員たち、外宮のご神木は神宮司庁営林部の若手を中心とした各七名によって進められた。おのが振りおろされる度に静かな森に澄んだ音が響きわたる。約一時間後、ついに最後のおのを入れる瞬間がきた。「大山の神〜!」杉頭の声に大樹は地響きとともに横たわった。



御杉始祭とは——ご用材の伐採を始めるにあたり、御杉山におられる神に祈る祭。遷宮にかかわる祭の一つ。今回は平成17年6月に行われた。

佐八苗圃

ヒノキの苗木を育てる 神宮佐八苗圃

伊勢市の宮川右岸に程近い佐八地区に、伊勢神宮の佐八苗圃がある。面積は四・一ヘクタール。神宮宮域林に植樹するためのヒノキの苗木を育てる畑が一面に広がっている。宮域林で採取した種子をまき、一年ごとに床替え(移植)をして、三年間で植林に適した苗木とする。年間に約二万本の苗木が生産される。一方、神宮で用いられるサカキも隣接した畑で栽培されている。



苗圃には、種子を蒔いた苗床、2年生、3年生の畑が整然と並ぶ。



ヒノキの種子。1つの実から約40粒とれる。



明治13年(1880)、明治天皇の御聖断を仰ぎ、伊勢神宮の遷拜所として建てられたのが「東京皇大神宮遷拜殿」、いまの東京大神宮です。皇室の御祖神である天照大御神をまつり、国民の総氏神として仰がれる伊勢神宮(内宮)の御神徳を皇都東京にあまねく宣布し、都民の心のよりどころになるようにとの願いから創建され130年の歳月が流れました。「東京のお伊勢さま」東京大神宮は、いまも伊勢神宮と都民の心を結んでおります。

4月17日(日)11時 例祭斎行
東京大神宮の創建日を祝し、皇室の弥栄と国家の隆昌、国民の幸福を祈願します。

東京のお伊勢さま



東京大神宮

遷宮への道③

鶴斑毛御彫馬



鶴斑毛御彫馬

月読宮(皇大神宮別宮)御料。今は絶滅した鶴斑毛という馬の毛並みの彩色を施し、王朝時代に用いたとされる唐鞍皆具を装備している。



御装束神宝によつて究極の技がこの国に甦る

神の御馬は木彫界随一の芸術家が鑿をふるうヒノキの彫馬。装飾には多くの匠が伝統工芸の極意をつくす。



ヒノキの彫馬を製作する橋本堅太郎さん。前々回の製作者である木彫家の平櫛田中氏(文化勲章受賞者)の弟子にあたる。

木彫の偉大な師との奇しき縁のもとで

神社の絵馬にその名残がみられるように、わが国では古くから馬は神への供えものとされてきた。式年遷宮の神宝にも、六体の檜彫の馬がある。

今回、その彫刻を担当したのは橋本堅太郎さん(81)。日展理事長としてご記憶の方もあろうが、親子二代にわたる著名な木彫家だ。小さいときから父親の工房で鑿研ぎをしたといい、芸術家には珍しい基本的な職人技にも卓越し、ア

カデミックな理論をも身につけた木彫界の第一人者である。神宝の調製を依頼するにあたり、采野武朗技師(64)(神宮式年造管庁)は、役目を終えて神前から撤下した神宝(註)を参考品として製作者に見ていた。

前々回、昭和四十八年式年遷宮のときの彫馬の製作者は平櫛田中氏。美術史上に名を刻む巨匠だ。橋本さんは東京藝術大学の学生時代、その平櫛教授の教室で学んだ。当時、すでに大御所だった平櫛教授は若輩の学生としては近寄り

がたい存在だったという。ところが六十年の歳月を経て、思いがけず同じ立場となり、しかも、今は亡き師の製作した神宝がお手本



彩色の下地づくり。ヒノキの馬体に「木地固」として生漆を塗り、さらに胡粉を重ねる。

渡来したとの記録がある。

漆、織、彫金... 熟練の匠の手を経て

馬の両腹部を覆い金色に輝く大ナメには、半肉彫りの孔雀形の金具に羽文を毛彫りする。製作者はわが国でも指折りの彫金師で、羽文の彫金には拡大鏡を使いながら全神経を指先に集中して行われる。

漆、織、彫金のほかに、鶴斑毛御彫馬には、さらに数多の伝統技法が集積され相乗されて完璧な姿となる。

遷宮によって、神々の御料とともにこれら多くの伝統の技がこの国に甦る、といつても過言ではありません」と采野武朗技師は語る。

遷宮まで、あと二年。御装束神宝の調製は最終段階を迎えようとしている。

(註) 撤下神宝
遷宮で神宮におさめられた御装束神宝は、二十一年後に次の遷宮を迎えて撤下(神前から下り)される。明治以前撤下神宝は、燃え尽きたり焼却し、燃えないものは土中深く埋められた。ただし、正殿の神宝だけは新宮の西聖殿に移され、次の製作の資料として保管されたのち、四十年後に撤下された。現在は、すべて保存され、神宮徴古館でその一部が常時展示されている。



(上)唐鞍皆具に使う唐錦を織るには、まず「織物設計」によって、色の配置、組織、風合いが決められる。(下)熟練の織り手によって唐錦が丹念に織り上げられる。

である。

「深く奇しき縁を感じます」と橋本さんは感慨深げでした」と采野さんは語る。

では、その工程をみてみよう。まず「彩色」だが、これは漆工技法が基調となり、下地だけで九つの工程を経る。中には三度繰り返される工程もあり、その後上塗りをしてようやく馬体の模様を描くまでになる。

彫馬の製作は、まず日本の馬の骨格を当てるなど体型の入念な検討からはじまった。形態が固まったところで、粘土により馬体の塑像をつくる。これを石膏型に写しとり、「星」と呼ばれる印しを数百点全身に記す。これらを檜材に随時写すというたいへんな手間を掛けながら、入念に彫り進められた。

馬の背にのせる「唐鞍皆具」は、平安朝の公式行事に列する飾り馬に装備した壮麗な馬具のミニチュアだ。ここに用いる唐錦は多色の色糸を使う重厚な織物で、厳密な織物設計なくしては織りすすむことはできない。

http://www.iwatoya.co.jp



伊勢・内宮前おはらい町 岩戸屋 TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE 珠庵 TEL 0596-23-6750

伊勢の上席&ギャラリーのやぐら 百蔵 TEL 0596-23-3236

おかげさまで創業百周年



生姜糖

ゆとりとやすらぎの宿 神宮会館 (財)伊勢神宮崇敬会

内宮に一番近い宿・歩いて5分どなたでもご利用いただけます



〒516-0025 伊勢市宇治中ノ切町152 TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517

http://www.jingukaikan.jp



早朝参拝のご案内をしております。

遷宮入門 その一

式年遷宮とは

二十年に一度行われる、お伊勢さんのご遷宮。現在、神宮では

第六十二回式年遷宮(平成二十五年秋)が進行中だ。そこで今回から、遷宮の歴史・意味・祭りについて神宮司庁の石垣仁久氏に連載していただく。

第一回目は、「式年遷宮とは」。
そもそも「式年遷宮」とは何か？
それはどうして行われるのだろうか？

式年遷宮の意味を解く

伊勢神宮の「ご遷宮」は正式には神宮式年遷宮と言います。ひと言で言えば、「二十年に一度、神宮の社殿を建て替え、御殿内に納める神宝類も一新して神にお遷り頂くこと」となります。神様のお引越ですが、なぜそのような制度があるのでしょうか。



新旧社殿が並ぶ皇大神宮。(平成5年9月撮影 提供/中日新聞社)

式年遷宮は「式」「年」「遷」「宮」の四つの漢字から成り立っています。これを分解して一字ごとにその意味を考えてみます。

「式」には一定の規範に従って行動するという意味があります。卒業式などの式典は、典則に従って事を行うこととなります。「年」という字は、稲の象徴である禾というかぶり物をした男

性が踊っている姿を表しています。女性が踊れば「委」で、子供なら「季」です。この踊りは豊年を祈る舞でしたので、そこから年は稔りや穀物を表す字となり、農期の一周である一年間の意味が生じたと言います。つまり、式年ということばは「年に従って行う」意味となります。それを式年とは「定められた年に行う」とすればよりわかりやすくなります。

次に「遷」ですが、都の移転を遷都というように、何かを移すという意味があります。「移す」は物を動かして別の場所まで持つて行くことですが、「遷す」にはよい場所を持つていく意味も含まれています。また「遷」には物ではない神霊などを移動させる意味があります。古代中国では、都を変えることは皇帝の先祖を祭る宗廟も移転させるので遷都と言ったわけでした。

最後に「宮」は、宮廷の神事や儀式を行う建物やかたどった字で、神聖なものの存在する場所という意味があります。日本ではこの字に立派な建物という意味の御屋というやまとことばを充てました。皇族のお

住まいを宮と呼びし、それが後に神社をさすことばとなったのです。このように式年遷宮とは「定められた年に神の住まいをよい敷地に遷す」ということとなります。

稲作を基盤に国づくり

では遷宮はなぜ行われるのか、またどうして二十年に一度なのかを考えます。

式年遷宮は、今から約千三百年前の天武天皇の時、二十年に一度行うことと発案され、次の持統天皇の四年(六九〇)に第一回が行われてから、平成二十五年で通算六十二回目となります。天武天皇の



神明造の御稲御倉。

古代の穀倉がルーツ

伊勢神宮の建築は唯一神明造という古代の穀倉に起源を持つ、木造米倉型の神殿です。食糧の備蓄、もしくは稲種の確保は国民を養い、人口を増やす絶対条件です。そのため穀倉はとても重要な建物で、日本人の祖先たちが長い年月をかけ、多くの経験や工夫を活かし、英知を結集して完成させた最高の建築物でした。日本人はその倉のおかげでこの列島で平和に暮

御代は、大陸の文化を積極的に取り入れ、建て替えるの必要のない堅固な建築も可能でしたが、あえて伊勢神宮は二十年に一度の遷宮が定められたのです。この二十年が式年になるのです。

一方、掘立柱に萱葺という原初的なスタイルは、必ず建て替える必要とし、二十年という周期は唯一神明造にとって早からず遅からず、神の宮の尊厳を維持する周期として最適であったでしょう。遷宮は、老朽化による建て替えではなく、神宮を日本の国のはじまりの象徴として永遠に子孫に示そうとしたものと考えられています。二十年に一度新しくなる伊勢神宮は、太古から現在に至る日本人の生命の連続の証でもあり、古くから天皇や国家から特別な取り扱いは受けてきました。現在も式年遷宮は天皇の御発意によってと

り進められているのです。

文 神宮司庁 石垣 仁久
昭和37年、宮城県仙台市生まれ。國學院大学大学院文学研究科博士課程前期修了。神宮権禰宜。神宮司庁広報室係長を経て、現在、神宮司庁文化部長・神宮司庁教学課研究員。

用語解説

社殿【しゃてん】

神社施設の中心で一般に本殿といわれる社殿を伊勢神宮では正殿といい、東西二棟の殿舎や御垣及び御門が十棟前後付属する。その総称を正宮とも呼ぶ。

唯一神明造【ゆいいつしんめいづくり】

神社建築には神明造・春日造・大社造など様々な様式があり、平安時代以降普及した流線的な流造と対照的に、神明造は直線的で切妻平入りの屋根の上に円筒形の榿木を数本配し、先端には千木が付く。柱は丸柱の掘立式で、左右に二本独立した棟持柱がある。伊勢神宮の建築が最も厳格で同じ物を作る事が許されないのが唯一神明造といわれる。

宮【みや】

仮設の神祭りの施設をヤシロ(社)と呼ぶのに対し宮は常設の施設。後に神社の一種の格式となり、戦前までは神社の名称に公に宮を使用するには一定の基準があった。特に神宮号は天皇の御許可が必要で、皇室に祭神を祀る官幣大社でなければ称することができなかった。ただし、伊勢神宮という名称は通称で神宮号ではなく、正式名称が「神宮」なのである。

敷地【しきち】

伊勢神宮では遷宮ごとに敷地が替えられるが、東西に同面積の敷地が用意されており交互に社殿が造営される。一方に社殿が建つと一方の敷地は遷宮後に更地にされ古殿地と呼ばれ、次回の遷宮の準備が開始されると新御敷地と称する。

遷宮トピックス

千三百年、大祭の伝える真髄とは――

伊勢神宮について、また、その式年遷宮についても、昨今、多くの書が出されている。しかし正統で、理解しやすく、美しい言葉で語られているものは稀だ。現職の神宮禰宜である著者が長年の研究と経験を生かし「正しい神宮を知ってほしい」と五年の歳月をかけてまとめた本書は、神宮の入門書となり、座右の書となる一冊といえよう。



『伊勢神宮のこころ、式年遷宮の意味』
小堀邦夫著 淡交社刊
定価2,310円(税込)、県内の書店で販売中

美しい五十鈴川の水を生かした豆腐を作りたい
「和妙」は良質の国産大豆と五十鈴川の伏流水を使い職人が丹精込めて仕上げました。瑞々しくなめらかな口あたりが身上市です。



「和妙」に「豆」を水のみを最大限ひきたせるよう作りあげた豆腐です。
お豆腐ソフト
「和妙」を50%以上含んだ、ふわふわソフトクリームです。
うの花と豆乳を練り込んだヘルシーソフトです。

伊勢おほらい町 豆腐庵山中
伊勢市宇治中之切町95番地 電話 0596・23・5558

伊勢内宮前 ひまぎ
〒516-0024 三重県伊勢市内宮おほらい町
TEL 0596-2241170
FAX 0596-2421170

外宮さんと内宮さん、二つのお宮が永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より「二光堂」と名づけました。
http://www.nikodo.co.jp/

贄の道を ゆく



大御神にささげる神饌の中で
もつとも特別に扱われるアワビ。
鳥羽市・国崎は、二千年間絶えることなく神宮へ
アワビを納めてきた御贄だ。

毎年七月一日には、国崎の海女が
倭姫命にアワビをたてまつった伝説に由来する
神事が海女たち総出で行われる。
豊穰の海から神宮へと
古代から続く
「贄の道」をたどろう。

中腹にある「海士潜女神社」では、
倭姫命にアワビを献上したとい
う伝説の海女「おべん」をまつる。
豊漁と海女の安全を祈願する神

社で、海女たちはここで磯の口明
け(一年の作業始め)の前にその
年の無事と大漁を祈願する。

「御潜神事」は、伊勢神宮へ納め
る「熨斗鮓」をつくるためのアワビ
を採取する神事だ。かつては毎年、
旧暦の六月一日に、国崎・答志・神
島・菅島・石鏡・相差・志摩の安乗の
七地区の海女たちが御潜の浜(石
鏡と国崎の境にある)に集ってア
ワビ採りを競い合った。

しかし、残念ながら明治四年の
御贄献進制度の廃止により途絶え
てしまった。およそ百三十年後、平
成十五年にパールロードの無料化
記念事業として一時復活。各地か
ら百三十名あまりの海女が参加

し、にぎわったが、平成十九年に再
び中止となり、アワビの奉納だけ
が続けられてきた。

現在の御潜神事は、「国崎熨斗あ
わび文化保存会」が平成二十一年
に再復活させたものだ。海士潜女
神社の例大祭に合わせて七月一日
に開催することとした。アワビ採
りの後には、御料鮓調製所で、その
日に採れたアワビを使った「熨斗
鮓づくり」の実演が行われる。また

「国崎で女に生まれたら海女にな
るのが当たり前やったんよ」と七
十九歳を迎えるベテランの海女が
教えてくれた。彼女は小学校の頃
から貝を採る練習をし、十六歳で
海女として長崎に出稼ぎに行っ
た。十八歳で結婚して国崎へ戻り、
夫と一緒に静岡の方など各地へ漁
に出たという。

現在、鳥羽市国崎町には、およそ
五十名の海女がいる。平均年齢は
六十五、六歳。八十代で現役の海女
もいる。国崎ではアワビの他にサ
ザエ・ワカメ・アラメ・ヒジキなど
も神宮へ納めている。それらを採
るのもまた彼女たちだ。国崎はい
わば、昔も今も神さまをもてなす
里なのだ。

鳥羽 — 神さまをもてなす 海女の里、国崎



海へ繰り出す海女たち。かつての御潜神事に参加する
ことは、志摩の海女にとって非常に誉れなことだった。



倭姫命が立ち寄ったとされる
石鏡。

二千年前、大和の都でおまつり
されていた天照大御神の新たな
鎮座の地を探すこととなり、皇
女、倭姫命が諸国をめぐる長い旅
に出られた。そして伊勢に辿りつ
き、「この地に居たい」という大神
のお告げによって伊勢に鎮座さ
れた。倭姫命はその後、大神への
御贄を調える地を求める旅の中
で国崎に立ち寄り、鎧崎で、おべ
んという海女が差し出したアワ
ビをとても気に入られ「毎年神宮
の御饌として供するように」と申
し渡された——と「倭姫命世紀」
(鎌倉時代成立)は伝えている。



御潜神事の日、海士潜女神社へ採れたばかりのアワビを奉納する。平成22年はおべんさん
の子孫・辻明日美さんがその役目を務めた。



深い信仰を集める海士潜女神社は日参する海女も多い。ここに
お参りすると、海の魔物から身を守る御利益もあるといわれる。



7月1日、海士潜女神社で
は、神宮の舞人による舞
が奉納される。

**お伊勢まいりのあとは
鳥羽温泉郷で
心も身体も湯ったり**

9つの湯処をつなぐ
海辺の温泉街道。
鳥羽の魅力を存分に!

鳥羽温泉郷の遊び方の
パンフレットを差し上げます
問/0599-25-3019

鳥羽温泉郷
TOBA ONSEN-GO

鳥羽市温泉振興会
〒517-0022 鳥羽市大明東町1-7 TEL 0599-25-3019 FAX0599-25-6358
http://www.toba-onsen.com E-mail info@toba-onsen.com

春の美味しいハイキング
期間4月3日～6月4日[全6回]

- ◇鳥羽湾の絶景を求めて「鳥羽三山・赤崎神社コース」
4月3日(日)
- ◇春爛漫 緑の青峰山正福寺に登る「青峰山コース」
4月16日(土)
- ◇瀬戸の鳥文学散策「神島コース」
4月29日(金・祝) 予約制/先着150名
- ◇国崎・相差パワースポットをめぐる「南鳥羽コース」
5月8日(日)・9日(月) ツーデーウォーク
要予約・有料/先着150名[詳細は鳥羽市観光協会へ]
- ◇寝屋子の島、歴史と文学の答志島を歩く「答志島コース」
5月22日(日)
- ◇加布良古さん参拝とディスクドッグ見学「安楽島コース」
6月4日(土)

お泊まりは鳥羽へ

鳥羽市観光協会 鳥羽市大明東町1-7 電話0599-25-3019
http://www.toba.gr.jp/

伊勢神宮とゆかりの地
鳥羽へ
美しく国をゆく

旬の恵みと海の幸と
温泉でのんびり

豊穡な海から神々の御もとへ

伝統が生きる

「熨斗鮔づくり」

海女たちによって採取されたアワビは、地元で加工され、神饌「熨斗鮔」となり神宮へ献上される。熨斗鮔の調製は二千年の昔から脈々と伝わる伝統の技法だ。

「熨斗鮔」って何？

国崎から神宮に納めるアワビは、熨斗鮔、生鮔、乾鮔の三種類。もつとも多いのが「熨斗鮔」だ。海女が採ったアワビを地元の古老が調べて、神宮へと納めている。

熨斗鮔とは、生アワビをひも状に剥いて乾燥させ、伸ばしたアワビのこと。「熨斗」とは、古代中国で使われたアイロンを指す。中世の日本では、敵を打ち伸し、身代をのし広め繁昌するという意味で、上流武士の慶事の贈答品として長熨斗鮔が珍重された。日ごろ、贈答品の印に使われる熨斗は、これを起源としているのだ。

神宮の神饌における熨斗鮔は、幅広の熨斗鮔を二十枚連ねた大身取、中くらいの熨斗鮔を五枚連ねた小身取、小片二十四枚を一連とし、新葉の縄で美しく編み上げられた玉貫の三種類に分けられる。

父子代々受け継ぐ、熨斗鮔づくり

熨斗鮔づくりは、鏡崎の付け根にある「御料鮔調製所」で行われる。海女漁たけなわとなる五月中旬頃、この調製所に古老たち、および八名が集まって熨斗鮔づくりが



始まる。若い頃は荒波へ出て漁の腕を競い合った漁師仲間たちだ。上座から年齢順に座り、最年長者の舵取りですべてが進行してい



神宮へ納める熨斗鮔は3種類



イラスト／朝倉小織

く。父子代々、何百年と繰り返されてきた作業だ。作り方は、まずアワビを剥くところから。右手に鎌に似た「熨斗刀」、左手にアワビを掴んで、くるくるとかつら剥きの要領でアワビの身をヒモ状に剥いていく。まずは、大身取・小身取をとって、玉貫の分をとる。剥いたアワビは二、三日間、調製所のすぐ裏手の干し場にかけて、天日のもとで乾燥させる。この作業は七月の半ばまで行われる。三節祭(神嘗祭、六・十二月の月次祭)が行われる六、十、十二月の第一日曜には、長熨斗を神饌として仕上げる「調進つなぎ」がある。天日で乾燥させて琥珀色になったアワビを水に浸け、柔らかくしてから竹の筒を使って、薄く伸ばす。これが「のし」アワビと言われるゆえん。寸法通りに切り揃え、新葉で縛った縄に通したら完成となる。

調製所のすぐ裏手の高台が四方を垣で囲んだ干し場になっている。入口には黒木の鳥居が。



上／熟練の技でアワビを剥く。中／300gのアワビがおよそ1m50cmになる。下／乾燥させた長熨斗を熨斗鮔として仕上げる。右／50～80代の国崎の古老たちが寄り合っている。

伊勢神宮と神饌・アワビ

私たちに高級美味として知られるアワビ。伊勢の神々は一年間にいったいどれほどのアワビを召し上がっているのだろうか。「国崎熨斗あわび文化保存会」の会長世古安秀さん(59)によると、その数は熨斗鮔だけでも年間およそ二千個、六百七十個におよぶという。

三節祭では、アワビは数ある神饌の代表として、それを納めた辛櫃が祭列の先頭を進む。内宮の石段下の御贄調製所に着くと、御贄の代表として、権禰宜が生鮔を忌箸

でおさえ、忌刀で三度刻みを入れ、御塩であえて調理する儀式が行われる。なぜ、神饌のなかでアワビがこれほどまでに特別に扱われるのだろうか。

アワビは昔から不老長寿を表すめでたいシンボルとされてきた。古来、中国においてアワビは仙薬的な食べ物とされ、秦の始皇帝が徐福を使わして霊薬を求めさせた一つがアワビだったという伝承もある。

一方、二十一年に一度行われる神宮の式年遷宮は、神殿や神宝などすべてを新しくして、神に多いなる力を発揮していただくという

ものだ。神宮の持つ常若の思想に、不老長寿の信仰をもつアワビが重される理由が隠されているかもしれない。また鮔を、熨すことは清めるという意味も持つ。「あなたの長生きをお祈りする」というメッセージと、贈り主と品物の清浄をあらわすシンボルが熨斗鮔だ。日本において熨斗鮔の贈答は、古くから長寿・無病息災、武運長久さらには年始、歳暮、誕生などあらゆる祝儀に使われてきた。神さまに供奉する神饌としてアワビを大切に扱う意味もここにありと見え

”日本の心”を味に託して——
うましくに伊勢の銘品



伊勢せきやでは古来至上的の美味・あわびをはじめ、厳選した海・山の幸を自然純正の調味により仕上げた珍味を取り揃えております。伊勢神宮ご参拝の折にはぜひお立ち寄りください。

あわび



独特の「醬」、一子相伝の「たれ」をたっぷり使い、手間を掛けて、ふつくと柔らかく煮込んだあわびを「参宮あわび」とよばせていただきました。ご家庭で、ご進物に、お土産に、慶弔のお配りものとしてお選びください。



- ◆本社 伊勢市上地町2691-13
電話0596・23・1281(代)
☎ 0120-00-0707
- ◆本店(外宮前) 伊勢市本町19-19
電話0596・23・3141(代)
- ◆参宮楽膳 伊勢市上地町2691-51
伊勢問屋センター前
電話0596・20・3958(代)
- ◆内宮前店 伊勢市宇治中之切町87
電話0596・28・0081



鳥羽—国崎、相差へ

海女の里を訪ねる

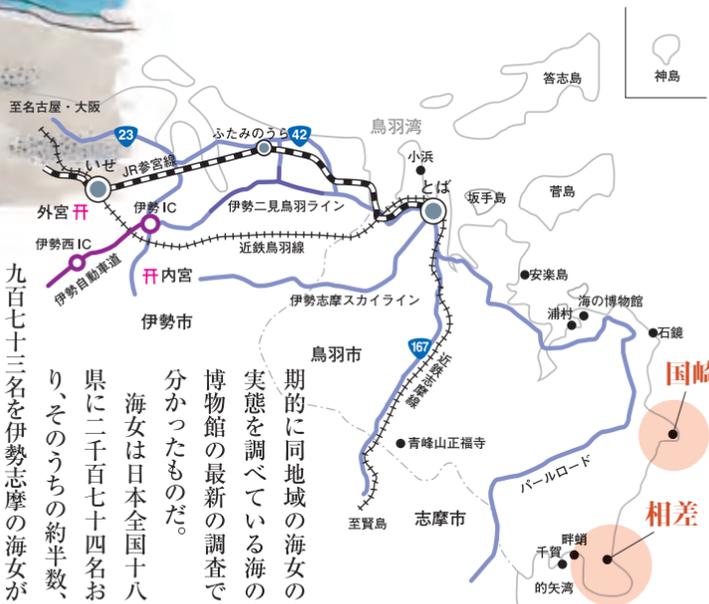
初夏、海女漁たけなわの季節——。
鳥羽市の石鏡、国崎から相差にかけては
全国でも有数の海女の里だ。
今回は、御贄処に定められた国崎、
志摩半島でもっとも多い
百名の海女が活躍する相差の
海女に出会える場所を紹介しよう。



かつて御潜神事が行われていた老の浜。国崎は太平洋と熊野灘に面しており、「志摩の国の先」にあることから国崎という地名がついた。



イラスト/朝倉小織



初夏は海女漁の最盛期

春から夏にかけて、志摩半島は海女の季節となる。各漁村で磯の口明けとなり、冬の間はひっそりとしていた磯がにわかに活気を取り戻す。

たくましく海に生きる

海女漁は三月半ば頃のワカメ・テングサなどの海藻類からはじまり、四月中旬から中心となるのはアワビ、サザエ採り。海女たちは三重県の条例に基づいて九月十四日まで潜り続ける。十一月に入ると、ナマコ採りの季節となり、十二月

未まで冬の冷たい海へ潜る海女も少なくない。海女の平均潜水時間は約五十秒。きびしい潜水作業のため、漁期間が終わると十数キロ痩せている海女もいるというほど、激しい仕事である。しかし、海女たちが暖をとる海女小屋にはいつも明るく元気な笑い声が響いている。

全国的にみて伊勢志摩に海女が多いのは、①漁場が良く、資源が豊富であること、②早くから資源を保護するための対策がなされてき



明治時代に描かれた志摩の海女の姿。『三重県水産図解』より



歳神さまをお送りする「のっと正月」。



活気ある国崎漁港。

たことが理由にあげられる。現在、三重県ではアワビ漁について禁漁期間や採ってはいけない大きさを定めており、地区によってはさらに規制しているところもある。

古くから伊勢志摩の海女たちは、時に自然と闘い、また海の恵みに感謝しながら、自然とともに生きる漁法を伝えてきた。

平成二十三年一月に国崎町の伝統行事「のっと正月」が国指定の無形民俗文化財に登録された。国崎の各家から一人ずつの女性が集まり、女神を藁舟に乗せて送る行事で、女性を中心となって行われる点などが全国的にも類例が少ないという。参加する国崎の女性はほとんどが海女だ。志摩の海女は「一人養えないようでは一人前の海女ではない」といわれてきた。そこには海に暮らしを懸けるたくましくも明るい女性の姿がみえる。

今も石鏡や国崎、相差を訪ねれば、漁港や海辺で漁を終えた、快活な海女たちに出会うことができる。初夏、海女のいる海辺を訪ねてみては——。



先様の健康と長寿を祝う心を形にした伊勢熨斗。各種熨斗紙・熨斗袋・祝儀袋を取りそろえています。



漁場に近い海女小屋で、海の幸の採り手である海女達の話聞き、手焼きによる魚介をいただきます。

神話の時代から続く伊勢志摩の海女文化を伝えたい

海女文化を提供する **兵吉屋**

〒517-0032 鳥羽市相違町1094番地
TEL 0599-33-6145 FAX 0599-33-7407

旅の醍醐味 鳥羽の宿泊観光
宿泊のご用命は鳥羽旅館組合まで

<http://www.tobanoyado.com>
お得なプラン満載です

鳥羽旅館組合
〒517-0014 鳥羽市堅神町1020-1
TEL 0599-25-5096 FAX 0599-26-5656

清流宮川の伏流水を使った **鳥羽サイダー**
鳥羽の各旅館で販売しています
1本 280円 発売元/鳥羽旅館組合

海女に出会える立ち寄りどころ

「海女小屋」体験をしよう

海女小屋(かまど)は、海女が共同で利用する小屋のこと。海女たちがそこで火を焚き、海に潜って冷えた体を暖めたり、着替えをしたりする休憩所だ。火を囲んでにぎやかな話し声や笑い声が響く、だんらんの場でもある。鳥羽市相差ではその「海女小屋」で、食事しながら現役の海女たちから話が聞くことができる。

◎兵吉屋はちまんかまど

伊勢志摩近郊で獲れた新鮮な魚介を、素材の味を生かした炭火焼きで味わえる。元気で気さくな海女たちの会話も楽しい。二カ所あり、鯨崎のかまどは、実際に海女が利用しているもので、的矢湾を見渡すあさり浜かまどは、大人数での利用にぴったりだ。オプションで磯着を着る体験も可能だ。要予約。



◎相差かまど海女小屋体験

相差観光協会では、相差漁港にほど近い「前の浜」と鯨崎の二カ所で海女小屋を開放。現役の海女たちが、サザエ、大アサリをはじめ、干物やうに飯など相差で獲れた旬の魚介でもてなしてくれる。近くに相差海女文化資料館もあるので、セットで訪れるのがおすすめだ。要予約。



- ランチタイム(時間30分)
 - 料1人3500円 ※最低人数4名
 - ティータイム(1時間)
 - 料1人2000円 ※最低人数4名
- 【問】相差観光協会 ☎0599-333-6411

女性の願いを1つだけ叶えてくれる

神明神社 石神さん

「女性の願い事を一つだけかなえてくれる」という神様。相差の氏神・神明神社の境内にある。地元の海女たちも磯の口明けの日などにお参りする。境内では、相差の海女が手作りした御守りやストラップが頒布される。パワースポットとして全国の女性から人気を集めている。



女性の参詣者が絶えない。

相差の文化を知れる、まち歩きの見どころ

相差海女文化資料館 / 五左屋

相差地区には海女文化と地域の歴史を紹介する施設が二つある。「相差海女文化資料館」では、海女の漁具などを展示するほか、相差の観光情報も豊富だ。神明神社への参道には築80年の古民家を改装した海女文化の紹介施設「海女の家 五左屋」がある。コーヒーなどを飲む休憩スペースもあるので、散策の途中に立ち寄りみては。



相差海女文化資料館

志摩の海女の全体像を学ぶ

海の博物館

伊勢志摩の海の歴史と文化を伝える博物館。海女や漁師の道具など5万8000点以上の収蔵資料の中から、常時2000〜2500点を展示している。本館の「志摩の海女」コーナーでは、海女の歴史や漁法、信仰、アワビのことなど、海女についての詳細な展示がある。



「志摩の海女」コーナー。

近年の「観光海女」の変遷を見る

特別企画展「海女」

4月23日(土)〜平成24年3月25日(日) ミキモト真珠島開島六十周年 初から海女たちによる潜水の実演が行われてきた。ミキモト真珠島・真珠博物館1階の企画展示室では、伊勢志摩の観光を支えてきた「観光海女」にスポットを当てた企画展を開催。そのイメージの変遷と広がりを紹介する。



昔のミキモト真珠島の海女たち。

- 【料】大人1500円、小人・小・中学生750円
- 【時】8時30分〜17時30分
- 【所】鳥羽市鳥羽1-7-1 ☎0599-252-028



いせのし 伊勢製斗

本物の「のし鮑」をつかったのし袋。のし鮑は、相差の海女が採った伊勢志摩産アワビを伸して手づくりしている。伊勢市の神宮会館、おかげ横丁、志摩市の志摩観光ホテル、東京の百貨店等で販売中。千円〜。

【問】兵吉屋 ☎0599-33-6145

伊勢文化舎・出版物のご案内

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|---|--|
| <p>聖地巡礼
世界遺産「熊野・吉野・高野山と参詣道」50コースを歩く。地元発ガイドブックの決定版。
1260円 A5判164頁</p> | <p>真珠王ものがたり
世界中の女性の首を真珠でしめてごらんにいれます。真珠王・御木本幸吉の一代記。
1325円 A5変型判128頁</p> | <p>夫婦岩の四季
時空を超え、はかり知れない魅力を秘めた夫婦岩。この日本の原風景を、365日連続撮影した記録。
1300円 A5変型判124頁</p> | <p>伊勢二千年ものがたり
神宮鎮座から現代まで、神都・伊勢の謎をひもとく。伊勢が気になる人のための必読書。
1325円 A5変型判128頁</p> | <p>伊勢のお木曳
神領民の心と技を伝える。お木曳のすべてがわかる。全79巻現物を完全収録。
1470円 B5判256頁</p> | <p>宇治橋ものがたり
宇治橋の歴史。渡船式の老女・わたりめ、船大工の技など、宇治橋のすべてがわかる記念の本。
1365円 A5変型判120頁</p> | <p>改訂版・検定お伊勢さん
伊勢の魅力と情報を詰め込んだ検定試験の公式テキストブック。これであなたも伊勢博士。伊勢商工会議所・伊勢文化舎【編集・発行】
1365円 A5判224頁</p> | <p>お伊勢さん 125社めぐり
伊勢神宮の摂社・末社など鎮座の由緒や周辺の歴史・文化を解説した、持って歩けるガイド。
1260円 A5判160頁</p> |
|---|---|---|---|---|--|---|--|

12回シリーズ

おかげの国を

めぐろう！



伊勢・鳥羽・志摩——「おかげの国」。
川辺に、岬に、みどりの森に、
お伊勢さん百二十五社がたたずむところ。
照る日も降る日も、
おかげ参りで訪れた旅びとを迎えてきた町です。
今回は、二見浦と齋宮周辺をご案内します。

その五

二見めぐり

お花見、夏至……太陽輝く季節に
ぐるり海辺の町を歩く

12・8キロ
スタート
三重交通汐合バス停
ゴール
三重交通池の浦バス停

再び町中を歩き、堅田神社をめ
ざす。昔、この辺りで製塩が行わ
れ、佐見郡日女命が倭姫命に堅塩
をたてまつったと伝わる。
そして風情ある木造旅館や土産
物店が並ぶ夫婦岩表参道へ。威風
堂々たる佇まいの「資日館」が目
を惹く。かつての貴賓の宿では、
資料展示や企画展が行われ、館内
と庭園が見学できる。ここから夫
婦岩のある二見興玉神社は近い。

社に出る。祭神は天照大神と素戔
鳴尊との誓約によって生まれた女
神。別名「淡海子神」と呼ばれ、
海岸鎮護の神と言われる。参拝後、
旅館「海の蝶」の裏道から表に回
り、池の浦バス停に向かう。

1 御塩殿神社
みしおのじんじや 内宮攝社
祭神は神宮御料の御塩の守り神、御塩
殿鎮守神。御塩浜で採取した鹹水から、
御料の御塩が奉製される。毎年三月と
十月には、焼き固めて堅塩が作られる。

2 堅田神社
かただしんじや 内宮攝社
祭神は土地の神、佐見郡日女命。倭姫
命に堅塩を奉った故事により定められ
た。

3 江神社
えのしんじや 内宮攝社
祭神は土地の神にして、五穀守護の三
柱の神、長口女命と大歳御祖命と宇加
乃御玉命。俗に「晴絵(巻江)の明神」
とも称される。

4 神前神社
かみまへしんじや 内宮攝社

5 許母利神社
こもりしんじや 内宮末社

6 荒前神社
あらいしんじや 内宮末社

7 粟皇子神社
あわみこしんじや 内宮攝社



御塩浜の採鹹作業は夏の風物詩。

春から夏、海辺の町・二見浦は、
一年で最も賑わしい季節となる。
夫婦岩での夏至祭や神宮の御塩づ
くりなど、この時期ならではの風
景に出合える。潮騒を聞きながら、
歩みをすすめてみよう。
汐合バス停から南には、神饌と
なる野菜、果物を栽培している神
御塩浜より東に向かうと松林の
海岸そばに御塩殿神
社の森が見える。御
塩殿に鎮まる神は別
名「塩土翁」といわ
れる。参道正面に御
塩殿、左手に御塩殿
神社が建ち、裏手へ
まわると、天地根元
造の御塩焼所・御塩
汲入所が並んでいる。
ここで塩づくりの作
業が行われる。海岸
へ出ると明治十五年
海水浴発祥の地とし
て公認された由緒あ
る二見浦海水浴場が

広がっている。
二見シーパラダイスを経て、江地
区の集落へ。太江寺の前を通り、
江神社へと向かう。江とは五十鈴
川河口で入江になっているため名
付けられた。次は小高い山の上
にある神前神社へ。麓から頂上まで
約二百六十段ある石段を上る。許
母利神社と荒前神社が同座。参拝
した後は、来た道を戻り、松下社
と民話の駅蘇民に立ち寄ろう。六
月頃には、花菖蒲が一面に咲く名
所でもある。国道から林道へと歩
き、海水浴場を抜けると粟皇子神



神々しい朝日を拝む夫婦岩。



二見しょうぶロマンの森。

おかげの国とは
伊勢志摩エリアは神宮の百二十五社が
点在する。おかげを感じる「おかげ
の国」。官民の組織「おかげまいる
ランド戦略委員会」が、おかげ参りの
ような旅の提案に取り組んでいる。
0596・21・5565
(事務局 伊勢商工会議所)

お伊勢さん 125社とは

- 正宮(しょうぐう) 2社**
天照大神をまつる皇大神宮(内宮)と、豊受大神をまつる豊受大神宮(外宮)。
- 別宮(べつぐう) 14社**
正宮の「わけみや」の意味をもち、正宮と関わり深い神をまつる格の高いお宮。式年遷宮も正宮に続いて行われる。
- 摂社(せつしゃ) 43社**
927年の『延喜式神名帳』に所載されている神社。
- 末社(まつしゃ) 24社**
804年の『延暦儀式帳』に記載されている神社。
- 所管社(しょかんしゃ) 42社**
正宮や別宮に関わり、水や酒、米、塩、麻、絹など衣食住をつかさどる神々が多くまつられている。

水族館
家族みんなが楽しめる
海獣たちとふれあえる

イルカ
ソウアザラシ

さわれる! 遊べる! 写真も撮れる!

ふれあい水族館 伊勢志摩国立公園/二見町
株式会社 夫婦岩パラダイス
三重県伊勢市二見町江580
TEL 0596-42-1760(直通)
0596-43-4111(代表)

http://www.futami-seaparadise.com

主催・運営 伊勢商工会議所
お伊勢さん
観光案内人

お伊勢さん観光案内人は単に知識を伝えるだけではなく、伊勢の良さを紹介し、訪れた皆様の思い出に深く残る旅のお手伝いをします。検定「お伊勢さん」上級編に合格した者がご案内します。

◇料金
外宮(名様まで) 2000円/グループ(所要時間約1時間)
内宮(名様まで) 3000円/グループ(所要時間約1時間半) (要予約)

お申し込み・お問い合わせ
美し国観光ステーション(内宮前・勢乃國屋内)
窓口時間 8:30~16:30 インターネット・FAX受付 24時間対応
伊勢市宇治今在家町117
TEL 0596-24-3501 FAX 0596-24-3504
E-mail kk_sta@kanko-pro.co.jp
http://www.ise-cci.or.jp

その六 機殿・齋宮めぐり

齋王ゆかりの地へ
織物のルーツを訪ねる

約13キロ
スタート
近鉄山田線漕代駅
ゴール
近鉄山田線齋宮駅



八尋殿に籠り、奉織につく地元の織子たち。



機殿と被川が流れる伊勢平野で、齋王宮跡のある明和町をめぐるコース。神御衣祭に捧げる麻布を織る神麻織機殿神社を訪れ、続いて同じく絹布を織る神服織機殿神社へ。齋王宮跡はゴール間近にある。

和妙、荒妙の神御衣を神様に奉る神様の衣替え・神御衣祭が、春と秋の年二回、五月十四日と十月十四日に行われる。これに先立って、松阪市東部の神麻織機殿神社と神服織機殿神社では一日に奉織始祭が行われ、奉織の無事を祈ったあと、地元の人々により、四五日かけて絹と麻が織られる。この辺りは、紡績に優れた一団が大陸から移り住み、伊勢神宮の衣縫を担った服部神部として織物の歴史を重ねてきた地域だ。

再び来た道に戻り、齋王宮跡へ。出土品や、齋王の生活・祭祀などを紹介する「齋宮歴史博物館」を目指す。齋王とは、大御神の御杖代として伊勢に遣わされた天皇の皇女。この制度は約六百六十年間

おかげの国めぐりにおすすめ!

「おかげの国」をめぐるには『お伊勢さん125社めぐり』を。歩きに便利なMAPや周辺の休憩処・土産物、伊勢神宮の知識など、旅に役立つ情報もたくさん。
●三重県内の主要書店、観光施設ほかで発売中!
定価1260円
伊勢文化舎
☎0596-23-5166



緑の森が茂る神麻織機殿神社。



齋王を学ぶ齋宮歴史博物館。

① 神麻織機殿神社
かんおはたのじんじや [内宮所管社]

② 神服織機殿神社末社八所
かんおはたのじんじや [内宮所管社]

⑩ 神服織機殿神社
かんはたのじんじや [内宮所管社]

続いた。齋宮駅近くの「いつきのみや歴史体験館」では、十二単や直衣など王朝貴族の装束を試着したり、蹴鞠、貝合わせなど古代の遊びが体験できる。

六月には毎年齋王祭り(今年二十九回目)が行われ、平安時代の王朝絵巻が再現される。



御垣内に鎮まる所管社。

2

犬も参った お伊勢さん

おはらい町の入り口の地下道「内宮おかげ参道」の陶板屏風をもうご覧になりましたか?

京都から伊勢・二見まで五日間の旅。原画は「現代の浮世絵師」といわれた門脇俊一さん。これを描いた昭和四十八年、画伯は還暦。そこでこれまで元気に生かさせていただけたお礼を込めて楽しみながら大作にいましました。自分がこれほど楽しく描いたのだから誰もが楽しく見てくれるはず。さらに後世の人に高齢者でもこんな仕事ができるかと挑戦する気持ちもあつたそうです。三か月で仕上げました。すごいエネルギーです。気力です。

門脇さんは犬がお好きだったのでしようか。そうかもしませんが、実はおかげ参りには犬がつきものでした。有名なのは百八十年前の「御陰参り文政神異記」にある阿波・徳島の「おさん」という犬。長い道中を頼み状をつけてはるばると参宮。京都の飼犬も道中で握り飯などもらって両宮のおふだを背につけて無事帰る。こうした話が広く伝わり、「犬までお参りする、まして人間なら誰もが」とおかげ参りがはじまったのです。

おかげ参道入口。

「生類憐れみの令」でお犬さんが大事にされていた時代。近年はペットブーム。おかげ横丁でも珍しい犬をたくさん見かけます。でも本来は犬を連れての参拝は禁止。抱かれてこっそり歯止めがきかない現状ですが、どうかマナーを守ってください。

「あそこにも犬がいる、猫もいる。ここにも犬がいるよ。いったい何匹いるのしょう? 描かれた人物は一万人以上。私は犬を数えてみました。四十七匹が数えられました。」



主人に代わって伊勢に参ったといわれている「おかげ犬」。

文・矢野憲一
NPO法人五十鈴塾
塾長。四十年間神宮に奉職した元神宮禰宜。神宮司庁文化部長。徴古館農業館館長などを歴任。著書に「伊勢神宮の衣食住」「殿」「アワビ」「枕」「桶」など多数。

見よ、遊ぶ、味わう...
平成のお伊勢参りを体験しに
いっぺんきておくらない。

伊勢 内宮前
おかげ横丁

伊勢市宇治中之切町52番地
☎0596-23-8838(総合案内)
http://www.okageyokocho.co.jp/

頭之守護神 知恵の大 神
ごうべ の みや よ もろ じん じま

商売繁盛・出世開運
職務安全・出世開運
心・病氣
頭の病氣・ケガ
学業向上
合格祈願 (入学・就職・資格・国家)
交通安全祈願
安産祈願
初宮詣・七五三

頭之宮四方神社
0598-72-2316
http://www.koubenomiya.or.jp/

願地 三重県度会郡大紀町大内山 (南紀特産)
●「大内山」下車徒歩10分
●総勢自動車道 紀勢大内山ICより尾鷲方面へ車で5分

いせびと歳時記

春から夏にかけての伊勢志摩のまつり・イベント情報

4月

1日(金)〜10日(日) 春まつり

宮川堤約1kmにわたり千本の桜並木が続き、屋台が並ぶ。

伊勢市 宮川堤公園 伊勢市観光協会 ☎0596.283.3705

3日(日) 松下弓祭

「鬼」の字が書かれた的に矢を放ち、地区の安全を祈願する。

伊勢市 見町、松平地区 伊勢市 見町総合支所地域振興課 ☎0596.421.1111

3日(日) 穀形祭

農耕始めの神事。田おこしから田植えまで一連の農耕儀礼が行われる。

伊勢市 九鬼岩倉神社 九鬼岩倉神社 総代 ☎0599.255.8529

9日(土)〜10日(日) 鳥羽春まつり

旧鳥羽城下の例祭。かがり火のもとで仕舞や能、狂言が披露される。

伊勢市 大山神社、賀多神社 賀多神社 ☎0599.255.2392

19日(火) 月夜見宮 春季大祭

月夜見宮奉賛会による神恩感謝の大祭。

伊勢市 月夜見宮 伊勢市 月夜見宮 ☎0596.244.1111

28日(木)〜30日(土) 春の神楽祭

午前11時から内宮神苑の特設舞台(雨天時は参集殿)で神宮舞楽が公開される。期間中は、神宮茶室の公開も行われる。

伊勢市 伊勢神宮内宮 伊勢神宮内宮 ☎0596.244.1111

5日(木) 倭姫宮 春の例大祭

甘酒のふるまい、早茶会などがあり子供たちに鯉のぼりが配られる。

伊勢市 倭姫宮 伊勢市 倭姫宮 ☎0596.244.1111

5日(木) 御田祭

神田の豊作を祈る祭。田楽に合わせた田植えの後、豊凶を占う団扇角力、豊年踊りが行われる。

伊勢市 猿田彦神社 伊勢市 猿田彦神社 ☎0596.222.2554

5日(木) 夫婦岩大注連縄張神事

夫婦岩の大注連縄を張り替える神事。二見太鼓や木遣りが響くなか、参道から手送りで大注連縄を渡す。

伊勢市 二見町、二見興玉神社 二見興玉神社 ☎0596.432.2020

7日(土) 神田御田植初

一面参照 伊勢市 桶部町、神宮神田 伊勢市 桶部町 ☎0596.244.1111

7日(土) 石神さん春祭り

石神さんに海女が参列して行われる大漁祈願の春祭り。(9面に関連記事あり)

伊勢市 相模町、神明社境内 伊勢市 相模町 ☎0599.216.6660

6月

1日(水)〜7月9日(土) 高柳の夜店

大正時代から続く、伊勢の夏の風物詩。1・6・3・8のつく日と毎土曜日に開催。7月9日(土)まで。

伊勢市 高柳商店街 伊勢市 高柳商店街 ☎0596.288.1101

3日(金)〜5日(日) 夏まつり

屋台や大道芸でにぎわう一足早い夏祭り。ゆかたの無料着付けもある。

伊勢市 二見町、おかげ横丁総合案内 ☎0596.233.8838

4日(土) 伊勢えび祭

伊勢えびみこしや踊りの披露、伊勢えび長寿汁のふるまいが人気。伊勢志摩のうまいもん市も開催。

伊勢市 浜島町、大浜海岸周辺一帯 伊勢市 浜島町 ☎0599.533.3330

4日(土) 斎王まつり

京から伊勢への斎王の旅路を再現した斎王群行が見どころ。

伊勢市 伊勢神宮外宮・内宮・風日祈宮ほか 伊勢市 伊勢神宮外宮 ☎0596.244.1111

14日(土) 神御衣祭

皇大神宮正宮と荒祭宮に、和妙(絹)と荒妙(麻)の夏の御衣を奉る。

伊勢市 伊勢神宮内宮・荒祭宮 伊勢市 伊勢神宮内宮 ☎0596.244.1111

14日(土) 春の伊勢菜市

伊勢地方の地場産品約100店舗が並ぶ名物市。

伊勢市 外宮周辺 伊勢市観光協会 ☎0596.283.705

14日(土) 風の市

風日祈祭に合わせ、風鈴の市など、風にあつむる催しを行う。

伊勢市 おかげ横丁、おかげ横丁総合案内 ☎0596.233.8838

16日(日) 龍宮社例祭(郷中施)

二見興玉神社の境内にある龍宮社の例祭。

伊勢市 二見町、龍宮社 二見興玉神社 ☎0596.432.2020

22日(水) 夏至祭

夏至の日の出とともに夫婦岩前で観を行う。(10面に関連記事あり)

伊勢市 二見町、二見興玉神社 二見興玉神社 ☎0596.432.2020

21日(土) 凜冽神事

私具「無垢草」を夫婦岩の沖合に鎮まると興玉神社から採取する。

伊勢市 二見町、二見興玉神社 二見興玉神社 ☎0596.432.2020

7月

1日(金) 潮かけ祭

750年以上続く奇祭。海女、漁師、見物人が一体となり潮をかける。

伊勢市 志摩町、和具漁港・大島 伊勢市 志摩町 ☎0599.85.6551

1日(金) 御潜神事

御潜神事。前浜、御料鯉調製所。

伊勢市 前浜町 伊勢市 前浜町 ☎0599.337.428

30日(木) 夏越の大祓

伊勢市 二見町、二見興玉神社 二見興玉神社 ☎0596.432.2020

30日(木) 神前普請

神前岬の先端にある洞門に地元民が綱つたしめ縄をかけ替え、地区の安全を祈る。

伊勢市 二見町、松平地区 伊勢市 二見町 ☎0596.421.1111

27日(月) 朝熊岳開山忌

中興の祖・仏地禪師の命日にちなみ神仏の供養、施餓鬼が行われる。伊勢志摩一円から参詣者がある。

伊勢市 金剛寺、金剛寺 伊勢市 金剛寺 ☎0596.222.1710

24日(金) 伊雑宮御田植式

3大御田植え祭りの1つ。田の中で大竹を奪い合う勇壮な行事の後、早乙女らによる御田植がある。

伊勢市 伊雑宮、伊雑宮 伊勢市 伊雑宮 ☎0596.244.1111

17日(日) 河崎天王祭

みこしや河崎首頭のほか、夜店が並び地元民にぎわう。幻想的な水中金魚花火は必見。

伊勢市 河崎一帯 伊勢河崎商人館 ☎0596.224.810

7日(木) 柴燈大護摩

日本3大護摩の1つ。7時から19時半までの間、7回護摩をたく。

伊勢市、世善寺、世善寺 伊勢市 世善寺 ☎0596.285.372

9日(土) 棒ねり

灯明の中、歌と太鼓に合わせて飾り棒を回しながら神社へ練り込む。

伊勢市 坂手島、若宮神社 伊勢市 坂手島 ☎0599.255.7107

11日(月) しろんご祭

白い磯着姿の海女がいつせいに海に潜り、アワビ採りを競う祭。

伊勢市、曹島・しろんご浜、曹島旅館組合 ☎0599.342.2331

14日(木) 二見大祭 しめなわ曳

夫婦岩の大注連縄を奉曳車に乗せ、二見興玉神社に奉納する。木遣り唄などを披露し旅館街を練り歩く。

伊勢市 二見町、JR二見浦駅〜夫婦岩参道 二見興玉神社、伊勢市 二見町 ☎0596.432.2363

22日(水) 赤崎祭

別名「ゆかた祭り」。神社へ続く路地に100軒以上の露店が並び、神社で厄除けの杉の枝が授けられる。

伊勢市、赤崎神社、伊勢市観光協会 ☎0599.253.019

24日(金) 桜木地蔵大祭

無病息災の祈禱、幸矢の授けがあり、夜には盆踊りが行われる。

伊勢市 桜木地蔵、世善寺、高橋さん方 ☎0596.244.803

14日(木) 相差天王くじら祭

大小の親子の鯨みこしが町中を練り歩く。

伊勢市 相模町内、相模町内会事務所 ☎0599.216.6660

30日(木) 神前普請

神前岬の先端にある洞門に地元民が綱つたしめ縄をかけ替え、地区の安全を祈る。

伊勢市 二見町、松平地区 伊勢市 二見町 ☎0596.421.1111

30日(木) 夏越の大祓

伊勢市 二見町、二見興玉神社 二見興玉神社 ☎0596.432.2020

1日(金) 御潜神事

御潜神事。前浜、御料鯉調製所。

伊勢市 前浜町 伊勢市 前浜町 ☎0599.337.428

30日(木) 夏越の大祓

伊勢市 二見町、二見興玉神社 二見興玉神社 ☎0596.432.2020

30日(木) 神前普請

神前岬の先端にある洞門に地元民が綱つたしめ縄をかけ替え、地区の安全を祈る。

伊勢市 二見町、松平地区 伊勢市 二見町 ☎0596.421.1111

27日(月) 朝熊岳開山忌

中興の祖・仏地禪師の命日にちなみ神仏の供養、施餓鬼が行われる。伊勢志摩一円から参詣者がある。

伊勢市 金剛寺、金剛寺 伊勢市 金剛寺 ☎0596.222.1710

24日(金) 伊雑宮御田植式

3大御田植え祭りの1つ。田の中で大竹を奪い合う勇壮な行事の後、早乙女らによる御田植がある。

伊勢市 伊雑宮、伊雑宮 伊勢市 伊雑宮 ☎0596.244.1111

17日(日) 河崎天王祭

みこしや河崎首頭のほか、夜店が並び地元民にぎわう。幻想的な水中金魚花火は必見。

伊勢市 河崎一帯 伊勢河崎商人館 ☎0596.224.810

7日(木) 柴燈大護摩

日本3大護摩の1つ。7時から19時半までの間、7回護摩をたく。

伊勢市、世善寺、世善寺 伊勢市 世善寺 ☎0596.285.372

花だより

桜 3月下旬〜4月上旬

伊勢市 宮川堤、五十鈴川、音無山など

つつじ 4月下旬〜5月上旬

伊勢市 松尾観音寺(昇竜つつじ)、磯神社、朝熊山上広苑など

藤 4月下旬〜5月上旬

伊勢市 太江寺

バラ 5月中旬

伊勢市 神宮ほら園(神宮会館)

花菖蒲 6月初旬〜6月中旬

伊勢市 二見しょうぶロマンの森

あじさい 5月下旬〜6月下旬

志摩市 大王町、大慈寺

睡蓮 6月下旬〜8月下旬

伊勢市 金剛寺

コラム伊勢志摩の花

神宮ほら園の「フリンセス・ハナコ」

常陸宮妃華子様を冠した新種のバラ。丸みを帯びたサーモンピンク色、房咲きの中輪で、淡い香りと気品を漂わせる。神宮ほら園では、このほか、ミチコ、マサコ、アイコなど、皇女のお名前を冠した十種類の花を鑑賞できる。



淡い香りと気品を漂わせる。神宮ほら園では、このほか、ミチコ、マサコ、アイコなど、皇女のお名前を冠した十種類の花を鑑賞できる。

伊勢からの便利

お田植えが始まるころ、磯では海女漁が口付けを迎え、アワビ漁が秋まで続きます。一方、伊勢市の面積の三分の一を占める神宮林では柚木たちが百年、二百年の気の遠くなるような歳月を見据えてもくもくと木を育てる厳しい取り組みがあります。選宮は世界でも類を見ないスケールの大きな民族の祭典でもあるのです。春から初夏の伊勢志摩にお出かけください。 発行人 中村 賢一 (伊勢文化舎代表)

近鉄特急で伊勢・鳥羽・志摩へ♪ 伊勢・鳥羽・志摩 “まわりゃんせ” スーパーパスポート おとな 9,500円 こども 5,200円 4日間有効

自分らしい旅、見つけませんか? 春だから、ゆったり、ゆっく。